岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2019. 3 No.160

目次／テーマ展　岩手の往来～道路のいま・むかし～**表紙**／いわて自然ノート　ドラゴンアイ（八幡平・鏡沼）の成因に迫る**p.2-3**／展覧会案内　テーマ展　「岩手の往来～道路のいま・むかし～」**p.4-5**／事業報告　第76回地質観察会「雫石町の海と湖の地層を見る」　事業報告　岩手県文化振興事業団プレゼンツ　文化・芸術が集うとき in 陸前高田**p.6**／事業報告　ミュージアムコンサート「岩手県立盛岡第四高等学校音楽部による合唱コンサート」　解説員室より　解説員にお声掛けくださいませ！**p.7**／インフォメーション**p.8**

テーマ展

岩手の往来～道路のいま・むかし～

平成31年3月16日（土）～5月6日（月）

「大日本全国之内奥州一円誌」〔館蔵〕

江戸末期の状況を描いた陸奥国（むつのくに）（現在の岩手・青森・宮城・福島）の絵図で、明治初期に刊行されたものです。盛岡・一関などの城下町はもとより、宿場町や各地域の中心村落を記しています。また、「光どう（光堂）」「中そんじ（中尊寺）」などの名所や盛岡・仙台の藩境である「鬼柳」と「あやさり（相去）」にはそれぞれ関所の絵が描き込まれています。山間部は緑色、平地は黄色で描き分け、近代的地図の要素も窺（うかが）える資料となっています。

■いわて自然ノート

ドラゴンアイ（八幡平・鏡沼）の成因に迫る

主任専門学芸調査員　山岸　千人（地質部門）

■ドラゴンアイとは

「ドラゴンアイ」は岩手・秋田県境付近にある直径約60mの火口湖「鏡沼」で、５月～６月に見られる現象です。池には氷が６月下旬まで残っていますが、やや楕円形の池に張った氷の中央が「目玉焼き」のように盛り上がり、盛り上がった周囲が沼の水で青く彩られます。平成28年、海外から訪れた旅行者がこの様子をSNSで「ドラゴンアイ‥」とつぶやいたところから一気に有名になりました。ちなみに、28年は特別に美しいドラゴンアイが見られた当たり年だったようです。下の写真は平成29年６月12日に撮影したものです。「目玉」の中央部の融解が進み中心部に水面ができてきました。これが「開眼」の始まりです。中央が白いままでは目入れ前のダルマ、もしくは白内障の眼球です。開眼が進むと全体に亀裂が入り氷が割れます。その状態を私は「眼球破裂」と言っています。

▲「開眼」が始まった鏡沼　平成29年６月12日撮影

■誰も注目しなかった鏡沼

鏡沼は八幡平アスピーテライン頂上駐車場からよく整備された遊歩道を徒歩で15分弱、八幡平頂上への周回コース上にあります。登山者だけでなく一般の観光客が多く通る場所なのに、なぜいままで話題にならなかったのでしょう。ひとつには鏡沼付近の眺望はあまりよくなく植物群落があるわけでもなく、湖面の静謐（せいひつ）さは正に「鏡」ですが、周遊の通過点だからです。八幡平にはもっと見栄えの良い場所が多くあります。ふたつ目には、この現象は「樹氷」のように認知されておらず気付かれなかった、または無視されていたからです。一昨年、昨年と注目を集めましたが、きれいに開眼することはおそらく希であり、その前段階である「盛り上がり」もいびつな年が少なくないようです。「開眼」といえるのは１週間程度、しかも夏至の頃ですから刻々と状態が変化します。前述の旅行者は開眼中の一番美しい瞬間に鏡沼を訪れたのでしょう。理由の三つ目は、本当に美しい瞬間はそう多くないから、です。

■氷の変化

氷の「盛り上がり」を「中央丘」としますが、これはアスピーテライン開通の頃でも僅かに確認することができます。水面はGW前後に出現し、同時に中央丘の盛り上がりもはっきりと分かるようになります。中央丘は日々高さが変化し、それに合わせるように丘を縁取る水面の広さや（氷上の）水深も変化しています。５月も半ば以降は日差しが強まり気温も高くなり、氷はどんどん溶けているはずです。にもかかわらず盛り上がりが維持されているのは、表面の氷が溶けた分だけ下から上昇しているからです。沼の中央部の氷はドーム状に上昇していますが、丘の周縁部（水面下の部分の氷）は岸辺の氷に押さえ込まれて上昇できません。したがって沼の氷は緩やかなW形の断面になっています。

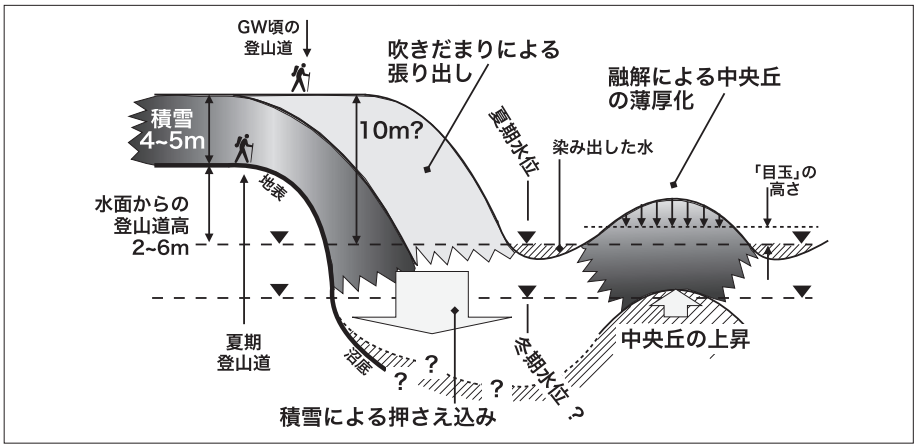
■開眼

中央丘は上昇と氷の融解が同時に行われているため、氷が先に薄くなります。上昇の要因は氷の浮力と考えられますが、水面に対して中央丘は50㎝を超える高さまで盛り上がることがあり、浮力だけでは説明しきれません。浮力に加え、鏡沼のすり鉢型の火口の外輪部の積雪が水面上の氷を中心方向に向かって押しているらしく、このことも沼の氷の中央部を盛り上げる要因になっていると思われます。氷は盛り上がると同時に融解も進んで、特に中央部はどんどん薄くなっていきます。中央部の厚さが最後の数十㎝程度になると自重でペタッと凹み、水で満たされるようになります。これが開眼の始まりです。この状態から融解が進み中央部の氷が消失した状態を「開眼」と称するのが生物的に正しいはず（「瞳孔」が開いた状態）ですが、どうも中央部に円形の水面が生じた状態で「開眼した」と言うことが（氷が残り、穴が開いていなくとも）通例になってしまったようです。

▲水面が現れた鏡沼　平成30年５月２日撮影

■雪の量と氷の厚さ

鏡沼周辺では４～５ｍの積雪があることを確認しています。厳冬期にはさらに多いかもしれません。もう一つ、鏡沼はすり鉢状の地形のため雪が吹き溜まっているということです。つまり鏡沼は凍結・結氷による氷＋積雪＋吹きだまり＝・・これらを合計した厚さの雪氷が水面を覆っています。５月の初めに鏡沼を訪れると、沼の直径は夏の半分ほどしかありません。季節風で雪が吹きだまり、沼の西半分がテラスのように埋められているからです。この頃沼の縁を歩いていると思ったら大間違い、そこは沼の水面上です。でも安心して下さい。夏の登山道の高さは（沼の壁の高さ）水面から２～６ｍほどあるので、それに積雪を加えると雪氷の合計は厚さ10ｍほどにもなり、これが沼の西側を占めています。中央部はそこまで雪は溜まっていないでしょう



▲南側から見た鏡沼東西断面の模式図

が、結氷と積雪で合計４～５ｍの厚さになっている可能性があります。因みに、６月に氷に穴が開いたり割れた場所で厚さを測定したところ、直接測定できた場所でも１ｍ＋、目測のみでは２ｍ近いのではないかと思われる場所がありました。６月までこれだけの厚さが保てていたのは、結氷と積雪の合計がかなりの厚さである証拠といえるでしょう。また、水中の氷は季節が進んでも溶けにくいと考えられます。逆に、開眼する頃、中央丘が陥没し水で浸されるようになった部分の氷の厚さは10㎝程度しかありませんでした。乗っているのが危ない厚さです。

■氷＝水が凍ったもの＋積雪に由来

氷の厚さについては、水が数ｍもの厚さで凍ることはないのだと、ドラゴンアイの成因について平成29年に言及したときから度々お叱りを受けていますが、ここで扱っている「氷」とは、前述のとおり水が直接凍ったものと、積雪に由来するものの合計であることに留意していただきたいのです。直接水が凍って生じた氷がどれくらいの厚さかは分かりません。しかし、積雪だけで４～５ｍ、沼の西側では積雪と吹き溜まった分で通常の水面から10mほどの高さにまで雪が積み上がっているのは間違いありません。また、５月半ば以降水中から多数の泡が昇ってくるのが認められます。これは水中の氷が溶けて、中に閉じ込められていた空気が浮かび上がってきていると考えられます。水が直接凍ったならば、それほど多くの空気を閉じ込めることはできません。降り積もった雪は多量の空気を含んでいますが、上から押し固められ雪が氷へ変化していく際に空気は閉じ込められてしまいます。多量の泡は氷が積雪に由来である証拠です。南極の氷を溶かすとパチパチと音がするのと同じ事です。

▲「目玉（中央丘）」ができ始めた鏡沼　平成30年５月15日撮影

■水の謎

ドラゴンアイを縁取る水について、多くの方は「氷が溶けて氷上に溜まっている・・」と思っているようですが、それは正しくありません。「沼の水が氷の上に染み出てきた」ためです。一般に厳冬期は凍結のため河川は流量が減り、湖沼は流れ込む水が少なくなり水位が下がります。これが春先の気温の上昇と共に一気に回復します。一般の湖沼では低下した水面に張っていた氷が、水位の上昇によって浮き上がろうとして割れてしまいます。この様子は八幡沼、ガマ沼などでも見られる現象です。少し異なるのが鏡沼の隣にあるメガネ沼で、メガネ沼（北）では水位上限よりも氷（雪）の方が高いらしく雪解けの最後の頃になるまで水面が現れません。この付近は鏡沼以上に大規模な雪の吹きだまりができています。メガネ沼（南）では雪面の上に薄緑の水が染み出し、しばらくの間沼の底が氷という状態が続きます。では鏡沼はどうか。水位の上昇によって氷は浮き上がろうとしますが、周縁部はすり鉢型の地形に積もった大量の雪で押さえ込まれています。そのため浮き上がろうとする中央部に対して周りは低い高さのままです。この部分に水が染み出てくると考えられます。

■平成31年のドラゴンアイは…？

平成29年は比較的整った姿を見せてくれたドラゴンアイですが、30年は「縁取り」部分の水面がいびつになってしまい少し残念な姿です。積雪量は例年程度のようでしたが、雪解けが平成29年に比較して10日～半月程度速いペースで進み少し驚きました。ですが沼の氷は29年同様６月末まで残っていました。

▲鏡沼　平成30年６月24日撮影

鏡沼の分厚い氷（結氷＋積雪）とほぼ円形のすり鉢型の地形、そして程よい直径と水位、これらの絶妙なバランスがドラゴンアイを作り出しているのでしょう。今年はどのような姿を見せてくれるのか、楽しみにしたいと思います。

■展覧会案内

テーマ展　「岩手の往来～道路のいま・むかし～」

会期　平成31年３月16日(土)～５月６日(月)　会場　特別展示室

日々近代的な道路の建設が各所で行われ、私たちの生活は一段と便利になり多大の恩恵を受けています。今日の社会における、諸地域の発展のための開発及びそれらに伴う交通網の整備は、避けることのできないものとも考えられますが、その反面、本県の歴史を知る上で重要な意味を持つ並木道、道標、一里塚などの交通遺跡が次第にその姿を消しているのも事実です。

このテーマ展では、参勤交代や蝦夷地開発、ロシアからの蝦夷地防衛のための往来に活用された奥州街道、また現在も宮古盛岡横断道路として開発が進み、復興の一役を担うかつての宮古街道を中心に、失われた時空と未来に向けての展望について触れていくものです。

序章　魅力あふれる岩手

岩手には大自然に恵まれた絶景、歴史的建造物、海産物など魅力的なものがたくさんあります。この章ではテーマ展の始めに、わたしたちの住む岩手について、各地の鳥瞰図や観光案内をご覧いただき、その魅力を感じていただければ幸いです。

岩手県観光鳥瞰図原図〔1937（昭和12）年　館蔵〕
岩手県観光協会が発行したパンフレット『観光と産業の岩手県』の原画です。

版画　釜石・尾崎白浜之図
〔江戸時代　田鎖鶴立斎　館蔵〕
尾崎神社が中心とされ平田には民家・漁船・漁民・漁具が描かれています。

第１章－１　盛岡藩を中心とした藩政時代の往来①～街道改修の礎～

江戸時代初期、奥州街道は主に東北諸藩の参勤交代の交通等に利用されました。参勤交代は幕藩体制の根幹を成す重要な制度です。

領地との往復や江戸屋敷の経費などで諸大名は多額の出費を迫られ苦しむ一方、交通の発達や文化の全国的な交流を促進することにもつながりました。

参勤行列図巻〔江戸時代　館蔵〕

盛岡藩領内図〔江戸時代　館蔵〕
領内の各村が表示され、それを結ぶ道路が朱線で描かれています。また、港湾には港出入口の広さや、港の深さなどが注記されています。
北海道の渡島半島の一部も描かれています。

第１章－２　盛岡藩を中心とした藩政時代の往来②～重要度を増す奥州道中・仙台道・松前道～

奥州街道は江戸時代中期に蝦夷地開発、また末期にはロシアからの蝦夷地防衛のために往来量が増加しました。

この奥州街道は1873（明治６）年に陸羽街道と改称され、その大部分は国道４号となり、流通の大動脈として経済の発展に大きく関わることとなります。

蝦夷地図〔江戸時代　館蔵〕
下北・津軽半島から千島、樺太までを描いた絵図です。

第２章　大正・昭和初期の地図にみる藩政時代 奥州街道の宿場

奥州街道という呼称は江戸日本橋を起点に、白川（白河）以北の仙台道、および松前道のうち、本州北端の三厩（みんまや）宿までの100余宿を指すことが多い総称です。正式には「奥州道中」と呼び、千住（せんじゅ）から陸奥（むつ）白川（福島県白河市）までの27宿を指します。

このうち現在の岩手県内にあった、特に盛岡近辺以南で宿場周辺の位置を示す地図を、大正・昭和初期の地図でたどっていきます。

５万分の１地図・黒澤尻
〔1926（昭和元）年　館蔵〕

第３章　五十集の道
～盛岡城下と宮古を結ぶ宮古街道～

宮古街道（閉伊街道）は盛岡城下の鉈屋町地内で遠野街道から分岐し、簗川・区界峠を超え閉伊川沿いに宮古へ至るルートです。

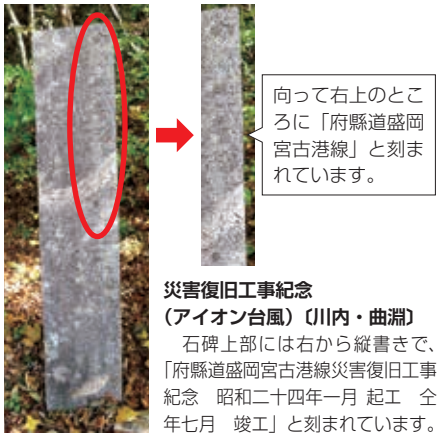
北上山地の平頂峰を真東に越え、渓谷をぬって横断する、領内でも屈指の難所続きの道筋です。この往来は通常２泊３日の行程となります。

飛鳥口の古碑　盛岡市指定文化財
〔撮影：薗田貴弘（H30・10月12日）**〕**
飛鳥口で宮古街道の本道と、左手の飛鳥に至る道を分岐しています。

第４章　宮古街道・変動の時代
～昭和40年代と50年代のルート比較～

宮古街道は、他に例を見ない再三の改修工事を必要とする盛岡領内でも屈指の難所続きの道筋でした。

明治・大正・昭和と時代が変わっても、宮古街道は多くの苦難を受けながら、生活を支える重要道であり続けています。



災害復旧工事紀念
（アイオン台風）〔川内・曲淵〕
石碑上部には右から縦書きで、「府縣道盛岡宮古港線災害復旧工事紀念　昭和二十四年一月 起工　仝年七月　竣工」と刻まれています。

旧国道106号　大峠・中腹付近
〔撮影：薗田貴弘（H29・９月５日）**〕**

夏屋橋　1941（昭和16）年10月竣工
〔撮影：薗田貴弘（H30・11月２日）**〕**
1947（昭和22）年、カザリン台風によって被害を受けましたが、橋自体は当時の状態をほぼ今日まで保っていることが石の欄干等を見ると分かります。

第５章　宮古街道・未来への展望

これまでに幾度となく災害に遭ってきた宮古街道ですが、最近では2016（平成28）年の台風10号による被害も記憶に新しいところです。しかし、ことあるごとに多くの人々に支えられて道路は復旧してきました。

この展覧会開催中も、これまでの総決算ともいうべき、安全面と経済発展の両立をはかった最先端の工事が続けられています。

この章では、宮古盛岡横断道路の開発の中で最も難所とされている「新区界トンネル」の工事の様子や　道路に期待される効果等をまとめてご紹介します。

トピック　移動手段・交通標識の歴史を振り返る

このコーナーでは、盛岡駅前を移動手段の移り変わりが反映された代表的な場所としてとらえ、次第にその中心が自動車へ移り変わるところと、道路に欠かせない交通標識の歴史についても触れていきます。

デジタルサイネージ

新区界トンネルの工事の様子と宮古街道の改修に尽力した鞭牛和尚を映像で紹介します。（約17分・宮古盛岡横断道路新区界トンネル工事事務所）

（主任専門学芸調査員　薗田貴弘）

≪関連事業≫

1　展示解説会
各回　14：30～15：20
特別展示室　要入館料
①３月21日（木・祝）
②４月６日（土）
③５月４日（土・祝）

2　県博日曜講座
各回　13：30～15：00
講堂　当日受付　聴講無料
①３月24日（日）
「岩手の往来と藤田武兵衛」
講師：薗田貴弘（展覧会担当学芸員）
②４月28日（日）
「岩手の道をつなぐ！宮古盛岡間最大の難所 区界峠の新しいトンネルと身近な土木」
講師：西川幸一氏（宮古盛岡横断道路　新区界トンネル工事　鹿島・東急特定建設工事共同企業体工事事務所　所長）

■事業報告

第76回地質観察会「雫石町の海と湖の地層を見る」

開催日　平成30年10月14日（日）

今年度２回目の地質観察会は雫石町の橋場～西安庭で行いました。今回の観察会は、同地域に分布する新生代の地層や化石を観察し、かつての雫石町がどのような環境であったかを推測することを目的として行いました。

道の駅雫石あねっこに集合すると、近くを流れる竜川沿いに見られる地層「山津田層」の観察に向かいました。山津田層はかつて（約1000万～800万年前）この辺りが浅い海の底であった時、火山灰や砂、泥などがたまってできた地層で、地層からは貝の化石が見られます。参加した方は熱心に化石の採集を行うとともに、大昔はこの辺りが本当に海の底であったことを実感されていたようです。

山津田層の観察の様子

次に全員でバスに乗り、坂本川沿いに見られる「竜川層」の観察に向かいました。竜川層は山津田層よりもやや古い時代に泥などがたまってできた地層で、山津田層に比べて火山灰が固ってできる岩石（凝灰岩）が少ないことが特徴です。これは山津田層ができた時代よりもさらに前、竜川層ができ始めた時この辺りは沿岸から離れたやや深い海の中であり、そのために陸地からの火山灰が届かなかったのではないかと考えられます。

最後に西安庭（あにわ）の用（よう）の沢（さわ）に移動し、「舛沢（ますざわ）層」の観察と植物化石の採集を行いました。舛沢層は植物や昆虫の化石が見つかることで知られており、約500万年前の陸地（湖の中）で砂や泥などがたまることでできた地層と考えられています。参加者の方々は、みなきれいな植物の葉の化石を採集しようと熱心に作業をされていました。また、この日一日の観察をとおして竜川層から舛沢層までの数百万年という時間の流れの中で、雫石町周辺が海の中からだんだんと陸地になっていく様子を想像することができたようです。

当館では今後もこうした観察会を継続して行う予定です。（学芸員　望月貴史）

■事業報告

岩手県文化振興事業団プレゼンツ　文化・芸術が集うとき in 陸前高田

会期　平成30年11月22日（木）～24日（土）

11月22日（木）から24日（土）の３日間、陸前高田市コミュニティホールを会場として、「岩手県文化振興事業団プレゼンツ　文化・芸術が集うとき in 陸前高田」を開催しました。

陸前高田市コミュニティーホール

本事業は、県民の皆様方に、岩手の優れた自然や文化、歴史、そして文化財保護について理解を深めていただくとともに、音楽や美術についても親しんでいただくことを目的として、当事業団を構成する県民会館、埋蔵文化財センター、博物館及び美術館の４施設が一体となって毎年県内各地で開催しており、前述の通り本年度の会場は陸前高田市でした。

合同展展示風景

この事業の中で当館は埋蔵文化財センターとの合同展を開催しました。当館からは地質・考古・歴史・民俗・生物の５部門が参加し、当館所蔵の貴重な資料、開催地周辺にゆかりのある資料を中心に約70点を展示し、３日間で476名の方にご来場いただきました。

このほか会期中には23日（金・祝）の「ガンライザーバンド生演奏」、「ガンライザー零とイヅーナ握手会」、美術館開催イベント「館長講座」、24日（土）県民会館開催イベント「ざ・CLASSIC in 陸前高田」も行われ、「合同展」と合わせて907名の方にご来場いただきました。

この事業を通して学芸員一同、県民の皆様の文化・芸術への関心の高さを改めて感じることができました。

ご来場いただいた皆様方、事業の開催及び運営にご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

（学芸第三課　佐々木康裕）

■事業報告

ミュージアムコンサート「岩手県立盛岡第四高等学校音楽部による合唱コンサート」

開催日　平成30年12月24日（月・祝）

今年で３年目となるミュージアムコンサートは、岩手県立盛岡第四高等学校音楽部を演奏者に迎え、平成30年12月24日に講堂にて行われました。

盛岡第四高等学校音楽部は学校の創立とともに創部され、50年以上の長い歴史を誇る音楽部です。近年の活躍はめざましく、今年度行われた第70回全日本合唱コンクール岩手県大会においては高等学校部門第１位、そして全ての部門を通しての総合第１位である、千葉賞を獲得しました。さらに、同東北支部大会でも優秀な成績を収めて５年連続の全国大会出場を決めると、全国大会では混声チームのみの出場で、Ｂクラス第５位、盛岡第四高校音楽部史上初の金賞を受賞するなど、今県内で最も注目されている音楽部です。

コンサート当日は開場前からすでに多くの方が講堂前に並んでおり、開場時間になるとあっという間に満席となりました。開演時間になり、音楽部の皆さんが入場すると会場は大きな拍手に包まれ、和やかな雰囲気の中コンサートが始まりました。並んで歌うイメージの強い合唱演奏なのですが、今回のコンサートでは時にはダンスを交えた躍動感あふれる演奏となりました。素晴らしい歌声と迫力に、来場された方はみな満足されていたようでした。

さらにこの日はクリスマスイブということで、「ジングルベル」などの有名なクリスマスソングを演奏していただいたほか、「あわてんぼうのサンタクロース」を会場一体となって歌いました。また、演奏の途中には会場にサンタクロースが現れてプレゼントを渡すといった嬉しいサプライズもあり、来場した子ども達にとっては最高のクリスマスプレゼントとなったようでした。

盛岡第四高等学校音楽部の皆さん

最後になりますが、本事業の開催にあたり、お忙しい中素晴らしい御演奏をいただいた盛岡第四高等学校音楽部の皆様に心より感謝申し上げます。

（学芸員　望月貴史）

■解説員室より

解説員にお声掛けくださいませ！

皆様、はじめまして。昨年の８月より、解説員として勤務しております吉村です。研修期間が終わり、12月から解説員としてひとり立ちしたばかりです。

突然ですが、皆様。岩手県立博物館には、解説員がいるということをご存じでしょうか。解説員は、お客様に博物館で楽しんでいただくために、展示資料を分かりやすく説明する仕事をしています。また、館内のご案内、展示に関するご質問への回答、たいけん教室での支援、団体客の誘導など、様々な業務を担っております。

私自身、解説員としての研修を受け、展示資料に関する歴史や展示に隠されたエピソードを学ぶ事で、今までただ眺めるだけの展示が、大変興味深く面白いものへと変化することに感動しました。そして、「岩手県って素晴らしいな。」と改めて実感することができました。

皆様には、私たち解説員を利用していただき、展示への理解や興味をさらに深めていただけると幸いです。館内では、お客様から展示資料に関するエピソードを伺うこともあります。そのようなお客様との会話は、資料に関する知識を深めるきっかけとなることがあります。

先日、お客様より、「スネカの背中には、なぜ、子どもの靴があるの？」というご質問をいただきました。スネカとは、ユネスコ無形文化遺産に「吉浜のスネカ」として登録された、大船渡市三陸町吉浜の小正月の来訪神行事です。お客様にスネカの背中にある子どもの靴の理由をお伝えすると、「へぇ！」という驚きをいただきました。皆様は、なぜスネカの背中に子どもの靴があるのかご存じでしょうか。その答えを探しに是非博物館へどうぞ‼

「恐竜の秘密」を解説中！

そして、博物館へお越しの際は、解説員にお気軽にお声掛けください。皆様が博物館で充実した時間を過ごすことができますように、私たち解説員が見学のお手伝いをさせていただきます。解説員一同、ご来館を心よりお待ちいたしております。

（解説員　吉村あすか）

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈2019年３月１日～2019年６月30日〉

お知らせ

●ゴールデンウィーク臨時開館
ゴールデンウィーク期間中の４月27日(土)～５月６日(月)は無休、翌５月７日(火)は休館です。

国際博物館の日

●入館無料　５月18日(土)
５月18日(土)の国際博物館の日は入館無料となります。

●国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)
５月18日(土)　要事前申込(応募者多数の場合は抽選)
ふだんは見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申し込みください。(各回定員10名)
①文化財レスキューコース(所要時間約80分)10：10～、②自然コース(所要時間約75分)10：20～、③文化財レスキューコース(所要時間約80分)13：10～、④歴史コース(所要時間約75分)13：20～
募集期間：４月２日(火)～４月26日(金)必着
応募方法：往復はがきに①参加希望コース、②住所、③参加者全員の氏名、④電話番号を明記の上、当館「県博バックヤードツアー係」宛に郵送してください。

展覧会

●テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし～」
３月16日(土)～５月６日(月)２階　特別展示室
参勤交代や蝦夷地防衛のための往来に活用された奥州街道、現在も開発が進む宮古街道を中心に、藩政時代から現在に至る岩手の道路を紹介します。
◆展示解説会
３月21日(木・祝)、４月６日(土)、５月４日(土・祝)　14：30～15：20
２階特別展示室
当館学芸員が、展示中の資料について解説いたします。(要入館料)
◆県博日曜講座
３月24日　13：30～15：00　地階・講堂　　入場無料
「岩手の往来と藤田武兵衛」　　薗田貴弘(当館学芸員)
４月28日　13：30～15：00　地階・講堂　　入場無料
「岩手の道をつなぐ！宮古盛岡間最大の難所　区界峠の新しいトンネルと身近な土木」
西川幸一氏(宮古盛岡横断道路　新区界トンネル工事　鹿島・東急特定　建設工事共同企業体工事事務所　所長)

●テーマ展「古・岩手のクロガネ―発掘から見えてきた古代～中世の鉄文化―」
６月８日(土)～８月18日(日)２階　特別展示室
◆県博日曜講座　7/14(日)予定　13：30～15：00　講堂
「岩手の古代～中世鉄生産の系譜(仮)」　講師：小山内透(当館学芸課長)
◆考古学セミナー講演会　7/28(日)予定　13：30～15：00　講堂
「古代東北の鉄生産(仮)」
講師：能登谷宣康氏(公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部　副主幹)
◆製鉄実演　8/4(日)　9：00～16：00　正面玄関前
実演講師：留畑昌市氏(元釜石市鉄の歴史館館長)
※雨天中止(前日雨天の場合も準備の都合上中止)

●三陸防災復興プロジェクト2019　三陸ジオパークワクワクフェスタ
国立科学博物館巡回ミュージアム
「生命のれきし－君につながるものがたり－(仮)」
会期・会場　６月２日(日)～16日(日)　岩泉町小本防災センター
６月22日(土)～７月15日(月・祝)　大船渡市立博物館
38億年前の地球最古の岩石、ようやく現れたエディアカラ生物の化石、恐竜の全身骨格などの標本・資料と一緒に地球のれきし・生命のれきしをたどる46億年のものがたりへご招待します。

県博日曜講座

第２・第４日曜日　13：30～15：00　当日受付　聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
※４月14日は休講の予定です。

＊ 展覧会関連講座
３月10日　「赤色顔料のはなし－土器・漆器の添付顔料を中心に－」　米田寛(当館学芸員)
＊ ３月24日　「岩手の往来と藤田武兵衛」　薗田貴弘(当館学芸員)
＊ ４月28日　「岩手の道をつなぐ！宮古盛岡間最大の難所　区界峠の新しいトンネルと身近な土木」　西川幸一氏(宮古盛岡横断道路　新区界トンネル工事　鹿島・東急特定建設工事共同企業体工事事務所　所長)
５月12日　「卑弥呼のころの岩手－岩手の弥生時代－」　金子昭彦(当館学芸員)
５月26日　「十和田10世紀噴火の影響(仮)」　丸山浩治(当館学芸員)
６月９日　「ストーンサークルの謎－縄文時代のモニュメント－」　濱田宏(当館学芸課長)
６月23日　「吉田松陰が認めた男－那珂梧楼の思想－(仮)」　武田麻紀子(当館学芸員)

週末の催し

◆ミュージアムシアター
毎月第１土曜日　13：30～15：00頃　講堂　当日受付　視聴無料
○３月２日　防災と名作アニメ(合計83分／小学生～一般向け)
「ひなまつり」(アニメ／19分)、「タイムスリップ1923　守のミラクル地震体験」(アニメ／15分)、「稲村の火」(アニメ／21分)、「金色の足あと」(アニメ／28分)
○４月６日　春のアニメ特集(合計84分／アニメ)
「三びきの子ぶたの交通安全」(アニメ／14分／幼児～小学生低学年)、「あの時「ボク」は自転車で…」(アニメ／20分／小学生)、「ねぎぼうずのあさたろう　巻の三　嘘つき小僧すず吉、村を守った秘密箱」(アニメ／50分／幼児～小学生低学年)
○５月４日　ゴールデンウィークアニメ特集(合計90分／アニメ)
「ぞくぞく村のオバケたち② ちびっこおばけグー・スー・ピー」(アニメ／20分／幼児～小学生低学年)、「バンビ」(アニメ／70分／小学生)
○６月１日　テーマ展関連　鉄(合計78分／一般向け)
「南部鉄器」(記録／20分)、「県政ニュース　昭和60年　この一年」(ニュース／14分)、「県政ニュース　昭和55年　完成した県立博物館(記録／14分)、「ふるさと岩手」(記録／30分)

◆チャレンジ！はくぶつかん
毎月第２・第３土曜、日曜、祝日 小学生向け　随時受付
３月９日・10日・16日・17日　　テーマ：道(みち)
４月13日・14日・20日・21日　　テーマ：ジオラマ
５月11日・12日・18日・19日　　テーマ：ふわふわ
６月８日・９日・15日・16日　　テーマ：衣(い・ころも)
チャレンジ！マークをさがして はくぶつかんをたんけん！

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)
毎週日曜日　13：00～14：30　幼児(３歳以上で保護者同伴)・小学生20名程度　さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※全プログラム有料です(材料費代／プログラムごと異なります)。
※要事前申込み。開催日の１週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(９：30～16：30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。１度に３名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

３月	３日　お絵かきはんこ 10日　土偶づくり 17日　３Ｄメガネで万華鏡 24日　天然石のフォトフレーム 31日　化石のレプリカ	４月	７日　スライムであそぼう 14日　オリジナル卵をつくろう 21日　まが玉アクセサリー 28日　こいのぼりづくり
５月	５日　手つくり万華鏡 12日　化石のレプリカ 19日　砂絵 26日　チャグチャグ馬コづくり	６月	２日　チャグチャグ馬コづくり ９日　草花のそめもの 16日　お絵かきはんこ 23日　ばねのキツツキおもちゃ 30日　スライムであそぼう

ゴールデンウィークイベント

◆動物ふれあいコーナー　４月29日(月・祝)
いろいろな動物とふれあうことができる楽しいコーナーです。

◆Nゲージ鉄道模型運転　５月４日(土)～５月５日(日)
博物館グランドホールを、Nゲージの鉄道模型が所狭しと走り回ります。懐かしの風景が見つかるかも！　車両持ち込み可！

◆ミニSLに乗ろう　５月４日(土)～５月５日(日)
みんなでミニSLに乗ろう。小さな蒸気機関車が博物館の芝生広場を力強く走ります。皆さんのご乗車をお待ちしております。

定時解説

平日～土曜日　13：30～14：30／日曜日　10：30～11：30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご要望におこたえしています。
※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

利用のご案内

■開館時間　９：30～16：30(入館は16：00まで)
■休 館 日　月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始(12月29日～１月３日)
■入 館 料　一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより
第１６０号
平成31年３月１日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
Tel.(019)661-2831／Fax.(019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023 盛岡市内丸13-1
Tel.(019)654-2235／Fax.(019)625-3595